

福島第一原子力発電所の状況

2016年10月18日
東京電力ホールディングス株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (10/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.4 m ³ /h	25.4 °C	0.49 kPa g	A系： 0.01 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約 2.0 m ³ /h	30.2 °C	4.42 kPa g	A系： 0.02 vol%
		炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m ³ /h	29.2 °C	0.27 kPa g	A系： 0.04 vol%
		炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.04 vol%

<2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (10/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	21.1 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	21.3 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	26.0 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルヘッドへの注水を適宜実施。

※ 使用済燃料プール代替冷却系の二次系共用設備の試運転における、冷却水配管の一部に水の流れが確認できなかった件について調査した結果、当該配管は空気が抜けにくい構造であるとともに、二次系共用設備の系統圧力が変更されたことにより、空気を押し出すことができなかったことが原因であると推定。そのため、対策として当該配管に空気抜き弁を設置するとともに、当該配管に繋がる冷却水配管の配置構造を見直す。

【3号機】

・2016/10/16～ 二次系冷却設備を1～3号機共用の二次系冷却設備へ変更する工事に伴い、冷却を停止中。

<3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/18 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、バッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

※2016/10/15 11:13 分頃、現在、停止中の多核種除去設備A系において、配管の保温材下部に約 3cm×4 cm(深さ約 1mm)の水溜まりがあることを当社社員が確認。水溜まり箇所上部の配管保温材を外して、当社社員が当該配管溶接部より約 1 滴/1 分の漏えいを確認。当該配管はクロスフローフィルタからデカントタンクへ繋がる配管であり、漏えいたした水は多核種除去設備で処理する前のストロンチウム処理水であると判断。現在、漏えい箇所を養生して水を受けており、床面への滴下はなし。
10/18 多核種除去設備A系の配管溶接部について、滴下が止まっていることを確認。配管内の水抜きを実施していく。

※2016/10/17 16:20 頃、停止中の既設多核種除去設備A系の吸着塔廻りにおいて、約 20cm×約 10cm(深さ約 1mm)の水溜まりが2箇所あることを協力企業社員が確認。2箇所ともに、配管保温材下部より 20 秒に 1 滴程度の水の滴下を確認。水溜まりは、当該設備の建屋内に設置された堰内に収まっている。16:35 に漏えい箇所(2 箇所)の下部に水受けを設置。当初、配管保温材下部の2箇所から水が滴下していたが、当社社員が保温材を外して状況を確認したところ、当該配管のエルボ部1箇所にしみがあることを確認。滴下した水は、既設多核種除去設備A系の最終段の吸着塔を通った水であり、滴下した水の線量率測定を行っ

たところ、既設多核種除去設備建屋内のバックグラウンドと同等であることを確認。

10/18 10:40 滲みが確認された配管のエルゴ部1箇所については、昨日、テープによる補修を実施し、滲みが止まったことを確認。今後、配管エルゴ部内の水抜きを実施するとともに、原因を調査する。

<4. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- 2016/3/31～ 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階)を開始。凍結運転は建屋内滞留水と建屋周辺の地下水位が逆転するリスクを低減するため、三段階に分けて実施する計画で、第一段階では1～4号機の海側全面と山側の一部を凍結することで進めていく。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- 2016/10/5～ 1号機タービン建屋滞留水処理を進めるため、1号機主復水器内貯留水を1号機廃棄物処理建屋への移送を開始。
- 2016/10/17 2016/10/10に発生した、3号機原子炉建屋の漏えい検知器動作に伴う滞留水移送停止について、当該漏えい検知器および移送配管を覆っているボックス内を詳細に確認した結果、移送配管からの漏えい等の異常なし。漏えい検知器が動作した原因については、ボックス内に発生した結露水が、一時的に漏えい検知器に触れたことで動作したものと推定。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5に全ての屋根パネルの取り外しが完了。
- 2016/9/13～ 1号機建屋カバー壁パネルの取り外し作業を開始。壁パネルは全部で18枚あり、取り外し作業期間は約3ヶ月を予定。

【サブドレン他水処理施設の状況】

- 2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
9/17～ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え。
- サブドレン他水処理施設一時貯水タンクGの分析結果[採取日10/12]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、10/17 10:07～15:53 海洋への排水を実施。排水量は836 m³。
- サブドレン他水処理施設一時貯水タンクAの分析結果[採取日10/13]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、10/18 10:00～海洋への排水を実施。

【地下水バイパスの状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- 地下水バイパス一時貯留タンク分析結果(Gr2)の分析結果[採取日10/5]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、10/18 11:02～海洋への排水を実施。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- 至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- 至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- 地下貯水槽 No.2の滞留水については、汚染水保有リスクを低減するため、6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約1,400m³の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。
- 3/1に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔A11～17の地下水を分析した結果、前回値(2/2採取)の全

ベータ放射能が ND (ND 値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

<最新のサンプリング実績>

地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件について、10/17に採取した i ~ iii 観測孔の水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

また地下貯水槽 i 北東側の漏えい検知孔水およびその他の分析結果について有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以 上